

**[成果情報名] メンテナンスフリー切り花の改良と適応品目の拡大**

**[要 約]** これまで開発してきたメンテナンスが不要で 10 日以上の日持ちする切り花商品のゼリー処方を改良した。この改良により、適応品目が拡大し、現状 50 品目の切り花で適応可能であることが確認できた。

**[キーワード]** メンテナンスフリー切り花、ゼリー、日持ち

**[担 当]** 静岡農林技研・花き科

**[連絡先]** 電話 0538-36-1555、電子メール agrikaki@pref.shizuoka.lg.jp

**[区 分]** 野菜・花き（花き）

**[分 類]** 技術・参考

---

**[背景・ねらい]**

消費者満足度の高い切り花の日持ち向上技術を開発するとともに、切り花を容器に生けたまま観賞が可能で世話をせずに10日間日持ちする商品を開発する。ガーベラにおいて大幅に日持ちが延長するゼリー（メンテナンスフリー切り花用ゼリーVer.1）を開発したが、カーネーション、バラ等で落葉や花弁の傷みが問題となっていた。このため、多品目への適応拡大を目的としゼリー処方を改良する。

**[成果の内容・特徴]**

- 1 改良処方Ver.5を用いることにより、合計50品目の切り花を10日間以上日持ちさせることが可能となり、かつ、これまでも利用可能であったガーベラ等においても日持ち延長効果がある（表1）。
- 2 カーネーションでは、メンテナンスフリー切り花区（改良処方Ver.5）で花弁の傷みが発生せず、原料ゼリー（エコゼリーEV）に比較し日持ちが延長する（図1）。
- 3 バラについては切り花の保管方法によらず、ゼリー処方Ver.5を用いることにより落葉が少なく、日持ち日数は蒸留水に抗菌剤を添加した場合と同等である（表2）。
- 4 ガーベラでは、改良処方Ver.5で、蒸留水および原料ゼリーよりも平均で6日日持ちが延長する（図2）。

**[成果の活用面・留意点]**

- 1 メンテナンスフリー切り花の適応性は「生け花後10日目時点で8割以上の切り花が観賞可能であること」とした。
- 2 本成果の試験は全て、メンテナンスフリー切り花用ゼリー改良処方Ver.5を用い、試験環境は気温23℃、相対湿度70%、12時間日長である。
- 3 ガーベラのように、茎上部の組織が硬くなる前に開花する品目は、切り花長を十分確保した上で、メンテナンスフリー切り花に利用する。
- 4 アジサイのように、切り口が傷み、日持ちがしない品目は、利用しない。
- 5 ストックのように、生け花中の吸水量が他の品目に比べ極端に多い品目は、メンテナンスフリー切り花に利用しない。
- 6 ヒメヒマワリのように、葉が傷みやすい品目は、メンテナンスフリー切り花として利用しない。

[具体的データ]

表1 メンテナンスフリー切り花適応品目<sup>1)</sup>

	花物	葉物	枝物
適応品目	アルストロメリア アンズリウム カーネーション ガーベラ カスミソウ カララ キンギョソウ クジャクソウ クルクマ ケイトウ 小ギク スイートピー ストレリチア センニチコウ トルコギキョウ ナデシコ スターチス ハイブリッドスターチス バラ ヒマワリ ホワイトレースフラワー マリーゴールド ユーパトリウム ユリ リコリス 輪ギク リンドウ ワレモコウ	アイビー イタリアンスカス エキノプレストロ カラテア コルジリネ ススキ スマイラックス スモークグラス テマリソウ ブルニア ヘデラ ペンタス ポリボジウム リキュウソウ リュウカデンドロン レザーフアン	雲竜柳 クジャクヒバ ヒベリカム ヒムロスギ ヒムロヒバ 裏バラ
不適応品目	アジサイ ストック ヒメヒマワリ		

1) 生け花後10日目時点で8割以上の切り花が観賞可能である品目

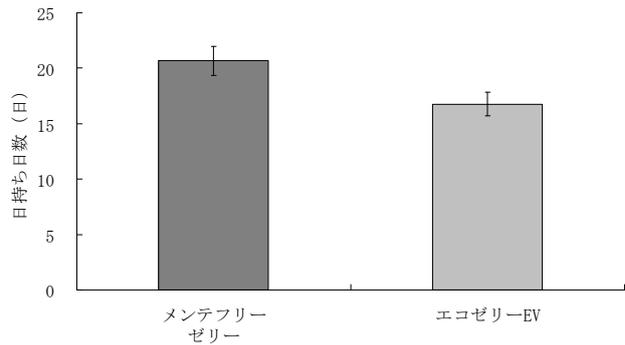


図1 メンテナンスフリー切り花用ゼリーがカーネーションの日持ちに及ぼす影響

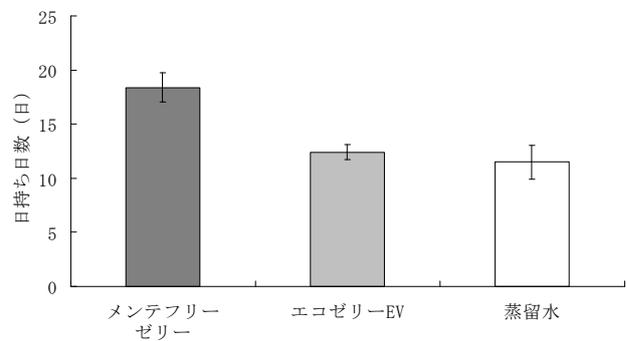


図2 メンテナンスフリー切り花用ゼリーがガーベラの日持ちに及ぼす影響

表2 メンテナンスフリー切り花用ゼリーがバラの日持ちに及ぼす影響

試験区	日持ち日数 (日)	落葉本数 (本)	
		10日目 <sup>1)</sup>	観賞限界時
メンテフリーゼリー	12.0	0	2
蒸留水+抗菌剤	12.4	4	7
分散分析 <sup>1)</sup>		ns	

1) 保管処理終了後生け花開始10日目の落葉個体数

[その他]

研究課題名：みかんの貯蔵性向上と切り花の新商品開発による静岡ブランドの強化、産地ブランド発掘事業「メンテナンスフリー切り花」

予算区分：新成長戦略研究（2013～2015）、産地ブランド発掘事業（2016～2018）

研究期間：2013～2018年度

研究担当者：高橋由美香、外岡慎、本間義之、岩崎勇次郎、梅田さつき、貫井秀樹

発表論文等：なし